

社の趾といふが残り、略中いにしへの西宮記八月の部、駒牽の條九條年中行事八月廿日の條、小野宮年中行事八月廿日の條、北山抄八月の部、中右記寛治八年八月廿日の條、政事要略廿三の卷、公事根源八月駒牽の條、拾芥抄中末卷、牧名の部、禮儀類典百六十四の卷などに出たる小野牧もこのわたりにや、

〔政事要略二十三年中行事〕十三日〇八牽武藏秩父御馬事

太政官符 武藏國司

應以朱雀院秩父牧爲勅旨牧以八月十三日定入京期事

秩父郡石田牧一處 兒玉郡阿久原牧一處 加御馬疋

右左大臣宣奉勅件牧宜爲勅旨牧散位藤原朝臣惟條充其別當每年令勞飼廿疋御馬合期牽貢者、國宜承知依宣行之符到奉行、

承平三年四月二日

〔西宮記八月〕延喜十年十月以馬形繪幣等給秩父御牧、

〔政事要略二十三年中行事〕十五日〇八牽信濃勅旨御馬事□此中有十五牧、左官

鹽原 岡屋 宮處 平井豆 埴原 大室 猪鹿 大野 萩乃倉 笠原 高位

〔本朝世紀〕天慶八年九月九日壬寅今日信濃諸牧大室、新治、宮處、長倉、猪鹿、山鹿、

〔木曾路名所圖會四〕望月信濃

望月御牧望月の驛の上の山をいふ、今牧の原といふ、

むかしは御牧七郷とて、此近邊みな御牧ありしといふ、

〔望月舊地考〕信州佐久郡望月御牧七郷之内太玉郷滋野庄者今の城下高祖貞保親王より代々望月

氏居住之地にて、古城跡有之、〇中